

大阪市の推計人口年報（平成24年）

～平成24年10月1日現在の推計人口と1年間の人口異動の動向～

平成24年10月

大 阪 市

目 次

1	人 口 総 数	1
2	男 女 別 人 口	1
3	世 帯 数	1
4	区 别 人 口	2
5	区 别 世 帯 数	5
6	人 口 異 動	7
7	年齢（3区分）別人口	11

《利用上の注意》

・推計方法について

推計人口（毎月1日現在）は、平成24年7月までは、「住民基本台帳」及び「外国人登録」の月々の増減を国勢調査結果の人口に加減して算出し、平成24年8月以降は、外国人住民が住民基本台帳に含まれることから、「住民基本台帳」の月々の増減を加減して算出している。本資料は平成22年国勢調査結果による推計人口である。

・人口異動について

推計人口においては、出生と死亡の差を自然動態（自然増減）とし、転入と転出の差を社会動態（社会増減）とした。転入、転出は市内の区相互間を含んでいる。

人口異動の自然増減率、出生率、死亡率、社会増減率、転入率、転出率は、前年10月1日現在の人口1000人に対する割合（千分比）です。※ 単位：%（パーセント）

・年齢（3区分）別人口について

年齢（3区分）人口は、平成24年7月までは、国勢調査結果の年齢（各歳）、男女別人口を基準に、「住民基本台帳」及び「外国人登録」の月々の年齢（各歳）、男女別人口異動を加減して算出し、平成24年8月以降は、外国人住民が住民基本台帳に含まれることから、「住民基本台帳」の月々の年齢（各歳）、男女別人口異動を加減して算出した推計人口である。

1 人口総数

平成 24 年 10 月 1 日の大坂市の推計人口は 267 万 7375 人で、前年（平成 23 年 10 月 1 日）と比べると 6796 人（0.3%）の増加となった。

表 1－1 人口の推移

年 次	人 口 (人)	増 減 数 (人)	増 減 率 (%)
17年	2, 628, 811	4, 036	0. 2
18年	2, 634, 944	6, 133	0. 2
19年	2, 642, 854	7, 910	0. 3
20年	2, 650, 670	7, 816	0. 3
21年	2, 659, 796	9, 126	0. 3
22年	2, 665, 314	5, 518	0. 2
23年	2, 670, 579	5, 265	0. 2
24年	2, 677, 375	6, 796	0. 3

1 太字は国勢調査結果。その他は各年10月1日の推計人口

2 平成18年から21年の推計人口は平成22年国勢調査結果により修正を行っているため、推計人口の増減数と後述の人口異動の増減数とは一致しない。

2 男女別人口

平成 24 年の人口を男女別にみると、男性が 129 万 9409 人、女性が 137 万 7966 人となっている。

男女別の人口を平成 23 年と比べると、男性が 3325 人（0.3%）増、女性が 3471 人（0.3%）増とそれぞれ増加している。人口性比（女性 100 人に対する男性の数）は 94.3 となっている。

表 2－1 男女別人口の推移

年 次	男（人）	増減数(人)	女（人）	増減数(人)	性 比 (女性=100)	
17年	1,280,325	302	1,348,486	3,734		94.9
18年	1,280,924	599	1,354,020	5,534		94. 6
19年	1,284,596	3,672	1,358,258	4,238		94. 6
20年	1,287,428	2,832	1,363,242	4,984		94. 4
21年	1,291,950	4,522	1,367,846	4,604		94. 5
22年	1,293,798	1,848	1,371,516	3,670		94.3
23年	1,296,084	2,286	1,374,495	2,979		94. 3
24年	1,299,409	3,325	1,377,966	3,471		94. 3

1 太字は国勢調査結果。その他は各年10月1日の推計人口

2 平成18年から21年の推計人口は平成22年国勢調査結果により修正を行っているため、推計人口の増減数と後述の人口異動の増減数とは一致しない。

3 世帯数

平成 24 年の世帯数は 134 万 1554 世帯で、1 世帯当たり人員は 2.00 人となっている。

これを平成 23 年と比べると、1 万 2038 世帯（0.9%）の増加となっている。

1 世帯当たり人員は一貫して減少を続けており、平成 23 年の 2.01 人から 2.00 人とさらに減少している。

表 3－1 世帯数の推移

年 次	世 带 数 (世 帯)	增 減 数(世 带)	增 減 率(%)	1世帯当たり 人 員 (人)	
17年	1,245,012	12,030	1.0		2.11
18年	1, 261, 113	16, 101	1. 3		2. 09
19年	1, 273, 724	12, 611	1. 0		2. 07
20年	1, 289, 751	16, 027	1. 3		2. 06
21年	1, 305, 639	15, 888	1. 2		2. 04
22年	1,317,990	12,351	0.9		2.02
23年	1, 329, 516	11, 526	0. 9		2. 01
24年	1, 341, 554	12, 038	0. 9		2. 00

太字は国勢調査結果。その他は各年10月1日の推計人口による。

4 区別人口

平成24年の人口を区別にみると、平野区が19万8674人と最も多く、次いで東淀川区が17万7064人、淀川区が17万2694人、城東区が16万5361人、住吉区が15万5253人と続いている。

この1年間の人口増加数を区別にみると、中央区が2049人と最も多く、次いで北区が2000人、西区が1860人、天王寺区が1373人、浪速区が1283人など、引き続き市域中心部を中心に増加している。

人口増加率においても中央区が2.5%と最も高く、次いで西区が2.2%、浪速区が2.0%、天王寺区が1.9%、北区が1.8%、福島区が1.4%など、市域中心部で増加率が高くなっている。

一方、人口減少数では、西成区が912人と最も多く、次いで港区が858人、生野区が830人、大正区が765人、住之江区が707人と続いている。人口減少率では、大正区が1.1%と最も高く、次いで港区が1.0%、西成区が0.8%、生野区と住之江区が0.6%と続いている。

表4－1 区別の推計人口

区名	人口(人)		対前年(平成23年)	
	平成24年	平成23年	増減数(人)	増減率(%)
大阪市	2,677,375	2,670,579	6,796	0.3
北区	114,657	112,657	2,000	1.8
都島区	103,878	103,091	787	0.8
福島区	69,876	68,941	935	1.4
此花区	66,368	66,077	291	0.4
中央区	83,029	80,980	2,049	2.5
西港区	86,743	84,883	1,860	2.2
港区	83,358	84,216	△ 858	△ 1.0
大正区	67,958	68,723	△ 765	△ 1.1
天王寺区	72,187	70,814	1,373	1.9
浪速区	64,432	63,149	1,283	2.0
西淀川区	97,333	97,461	△ 128	△ 0.1
淀川区	172,694	172,289	405	0.2
東淀川区	177,064	176,650	414	0.2
東成区	80,530	80,376	154	0.2
生野区	131,792	132,622	△ 830	△ 0.6
旭区	91,514	91,922	△ 408	△ 0.4
城東区	165,361	165,500	△ 139	△ 0.1
鶴見区	111,684	111,250	434	0.4
阿倍野区	107,358	106,668	690	0.6
住之江区	125,589	126,296	△ 707	△ 0.6
住吉区	155,253	155,309	△ 56	△ 0.0
東住吉区	129,691	130,140	△ 449	△ 0.3
平野区	198,674	199,301	△ 627	△ 0.3
西成区	120,352	121,264	△ 912	△ 0.8

10月1日現在推計人口。

図4-1 区別の推計人口（平成24年）

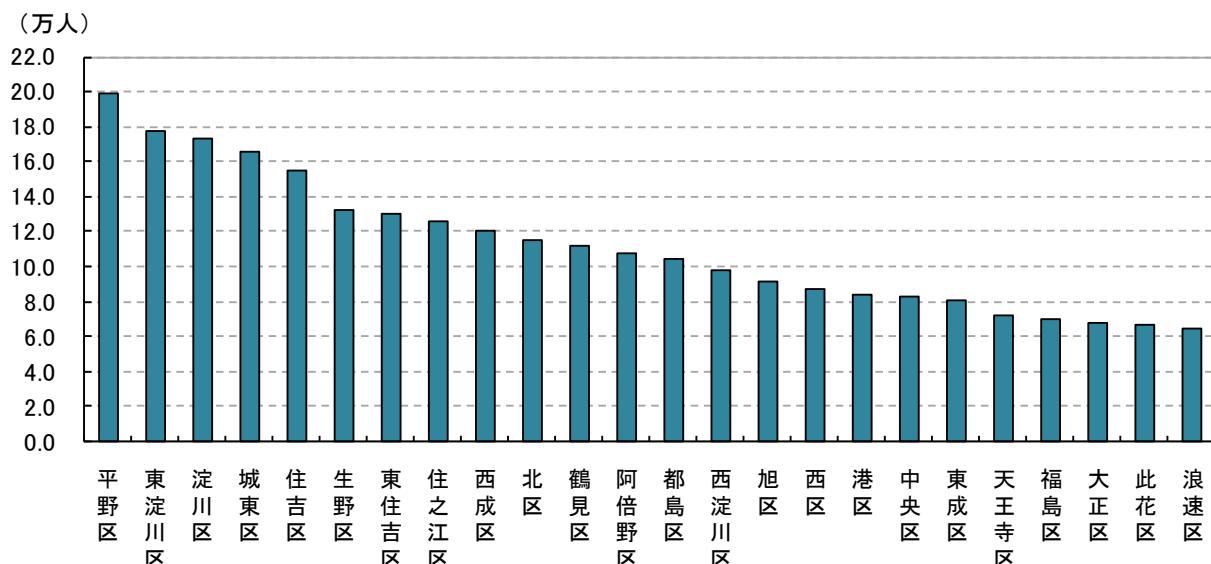


表4-2 人口増加数（上位7区）

順位	平成21年～22年		平成22年～23年		平成23年～24年	
	区名	増加数(人)	区名	増加数(人)	区名	増加数(人)
1	中央区	2,567	中央区	2,293	中央区	2,049
2	北区	2,457	北区	2,265	北区	2,000
3	西区	1,812	西区	1,825	西区	1,860
4	浪速区	1,489	福島区	1,651	天王寺区	1,373
5	福島区	1,411	浪速区	1,404	浪速区	1,283
6	天王寺区	974	天王寺区	1,039	福島区	935
7	此花区	602	此花区	508	都島区	787

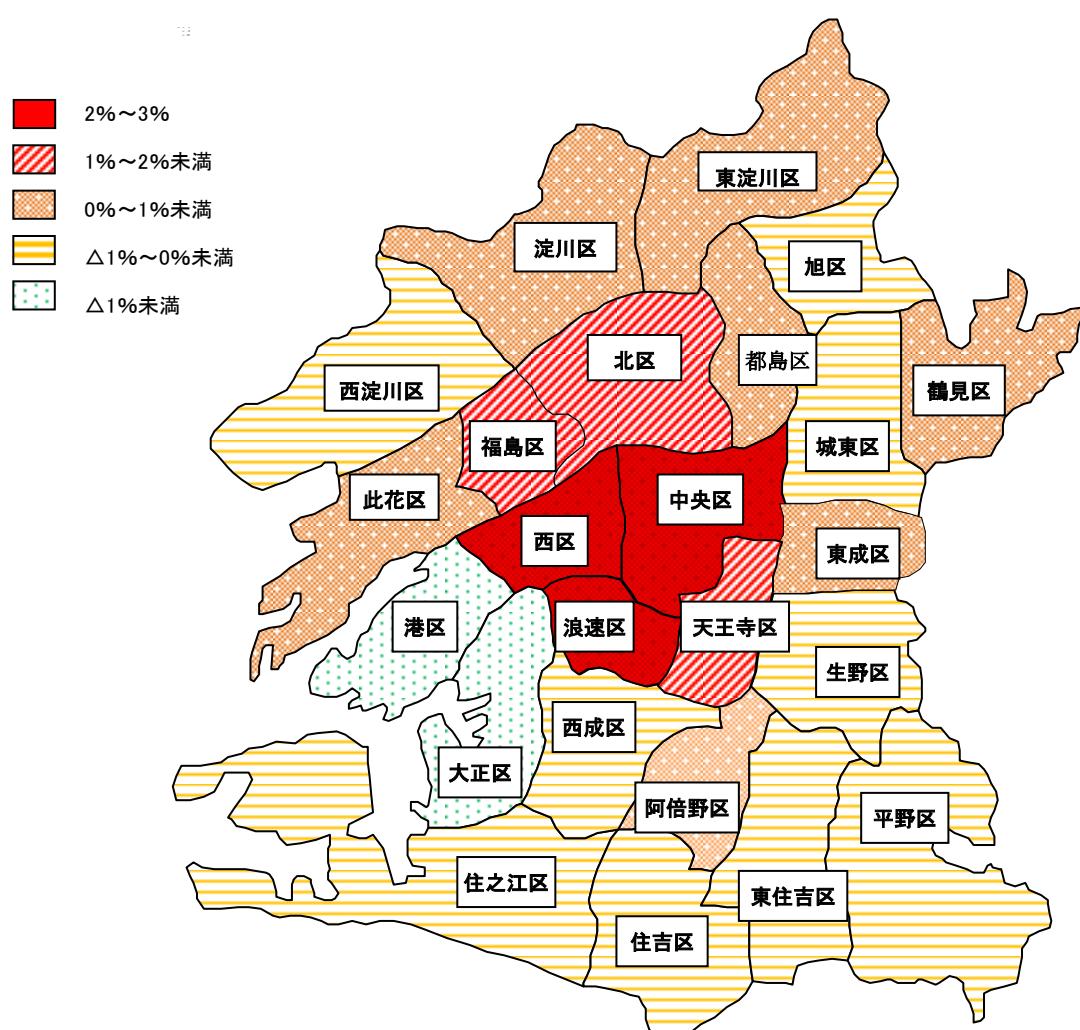
表4-3 人口減少数（上位7区）

順位	平成21年～22年		平成22年～23年		平成23年～24年	
	区名	減少数(人)	区名	減少数(人)	区名	減少数(人)
1	西成区	△ 2,513	生野区	△ 1,387	西成区	△ 912
2	東住吉区	△ 996	住之江区	△ 914	港区	△ 858
3	大正区	△ 926	大正区	△ 787	生野区	△ 830
4	住吉区	△ 729	港区	△ 731	大正区	△ 765
5	生野区	△ 701	西成区	△ 708	住之江区	△ 707
6	旭区	△ 568	平野区	△ 704	平野区	△ 627
7	東淀川区	△ 418	東住吉区	△ 584	東住吉区	△ 449

表4-4 人口増加率（上位7区）

順位	平成21年～22年		平成22年～23年		平成23年～24年	
	区名	増加率(%)	区名	増加率(%)	区名	増加率(%)
1	中央区	3.4	中央区	2.9	中央区	2.5
2	浪速区	2.5	福島区	2.5	西区	2.2
3	北区	2.3	浪速区	2.3	浪速区	2.0
4	西区	2.2	西区	2.2	天王寺区	1.9
5	福島区	2.1	北区	2.1	北区	1.8
6	天王寺区	1.4	天王寺区	1.5	福島区	1.4
7	此花区	0.9	此花区	0.8	都島区	0.8

図4－2 区别人口増減率の分布



5 区別世帯数

平成 24 年の世帯数を区別にみると、東淀川区が 9 万 3428 世帯と最も多く、次いで淀川区が 9 万 2535 世帯、平野区が 8 万 7402 世帯、城東区が 7 万 6666 世帯、住吉区が 7 万 4718 世帯と続いている。世帯数が最も少ない区は此花区の 3 万 3 世帯で、次いで大正区が 3 万 384 世帯、福島区が 3 万 6120 世帯と続いている。

この 1 年間の世帯数の増加数を区別にみると、北区が 1861 世帯と最も多く、次いで中央区が 1618 世帯、西区が 1287 世帯、東淀川区が 898 世帯と続いている、21 区で増加となっている。

世帯数の増加率では、中央区が 3.2% と最も高く、次いで北区が 2.8%、西区が 2.7%、天王寺区が 2.4% など、市域中心部で高い増加率となっている。

1 世帯当たり人員をみると、鶴見区が 2.43 人と最も多く、次いで平野区が 2.27 人、大正区が 2.24 人、西淀川区と此花区が 2.21 人と続いている。一方、最も少ない区は浪速区の 1.47 人であり、次いで中央区が 1.59 人、西成区が 1.62 人と続いている。

表 5-1 区別世帯数

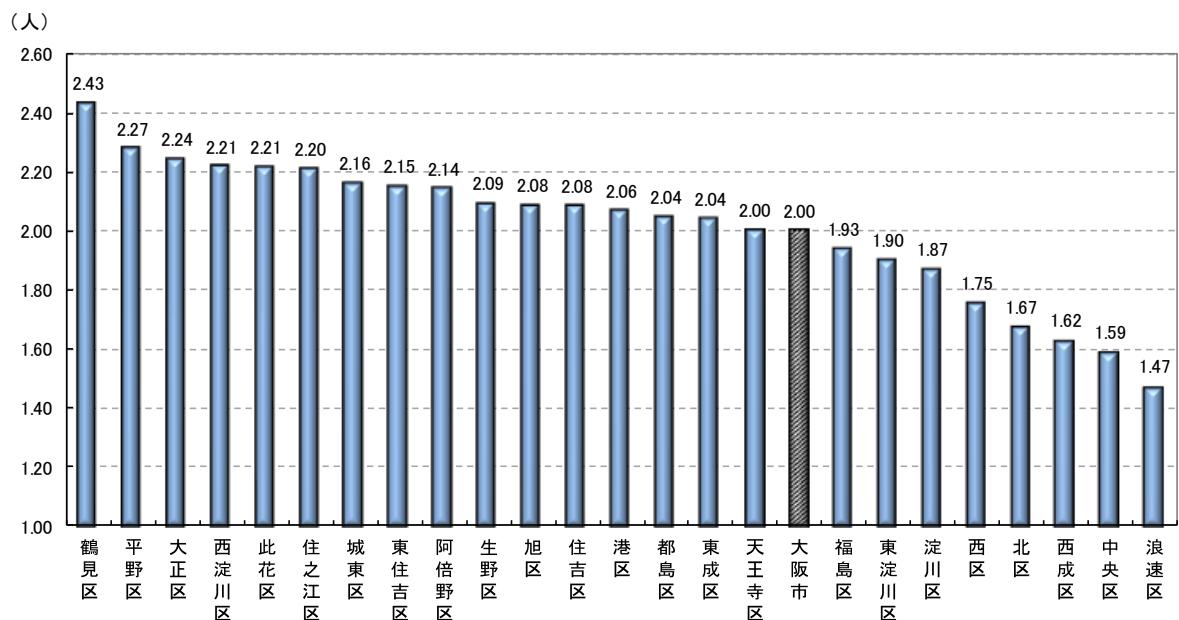
	世 帯 数 (世 帯)		対前年 (平成23年)		1 世帯当たり 人員 (人)
	平成24年	平成23年	増減数 (世帯)	増減率 (%)	平成24年
大 阪 市	1,341,554	1,329,516	12,038	0.9	2.00
北 区	68,660	66,799	1,861	2.8	1.67
都 島 区	50,868	50,423	445	0.9	2.04
福 島 区	36,120	35,387	733	2.1	1.93
此 花 区	30,003	29,836	167	0.6	2.21
中 央 区	52,369	50,751	1,618	3.2	1.59
西 港 区	49,577	48,290	1,287	2.7	1.75
大 正 区	30,384	30,482	△ 98	△ 0.3	2.24
天 王 寺 区	36,146	35,289	857	2.4	2.00
浪 速 区	43,889	43,313	576	1.3	1.47
西 淀 川 区	43,997	43,761	236	0.5	2.21
淀 川 区	92,535	91,772	763	0.8	1.87
東 淀 川 区	93,428	92,530	898	1.0	1.90
東 成 区	39,569	39,217	352	0.9	2.04
生 野 区	63,132	63,036	96	0.2	2.09
旭 区	43,954	43,928	26	0.1	2.08
城 東 区	76,666	76,401	265	0.3	2.16
鶴 見 区	46,031	45,454	577	1.3	2.43
阿 倍 野 区	50,243	49,730	513	1.0	2.14
住 之 江 区	56,958	56,615	343	0.6	2.20
住 吉 区	74,718	74,346	372	0.5	2.08
東 住 吉 区	60,416	60,217	199	0.3	2.15
平 野 区	87,402	86,958	444	0.5	2.27
西 成 区	74,091	74,422	△ 331	△ 0.4	1.62

10月 1 日現在推計人口

表5－2 世帯数及び1世帯当たり世帯人員（上位・下位5区）

世帯数（世帯）				1世帯当たり世帯人員(人)			
上位5区		下位5区		上位5区		下位5区	
東淀川区	93,428	此花区	30,003	鶴見区	2.43	浪速区	1.47
淀川区	92,535	大正区	30,384	平野区	2.27	中央区	1.59
平野区	87,402	福島区	36,120	大正区	2.24	西成区	1.62
城東区	76,666	天王寺区	36,146	西淀川区	2.21	北区	1.67
住吉区	74,718	東成区	39,569	此花区	2.21	西区	1.75

図5－1 区別1世帯当たり世帯人員



6 人口異動（前年10月中から当年9月中の合計）

(1) 自然動態

平成24年の自然動態（出生と死亡の差）は4337人の減少となり、平成23年の自然動態（3945人減）と比べると、392人の減少となった。また、自然増減率は△1.6‰（前年は△1.5‰）となっている。

自然増加数を区別にみると、西区が379人と最も多く、次いで鶴見区が360人、中央区が224人、福島区が184人、北区が136人など10区で増加となっている。一方、自然減少数では、西成区が2058人と最も多く、次いで生野区が753人、東住吉区が537人、旭区が408人と続いている。

自然増加率では、西区が4.5‰と最も高く、次いで鶴見区が3.2‰、中央区が2.8‰と続いている。自然減少率では、西成区が17.0‰と最も高く、次いで生野区が5.7‰、大正区が5.3‰と続いている。

ア 出生

平成24年の出生数は2万3067人で、平成23年（2万3766人）と比べると699人の減少となり、出生率は8.6‰（前年8.9‰）となった。

出生数を区別にみると、平野区が1795人と最も多く、次いで東淀川区が1668人、淀川区が1607人、城東区が1508人と続いている。出生数が最も少ない区は大正区の458人となっている。

出生率では、鶴見区が11.7‰と最も高く、次いで西区が10.9‰、福島区が10.8‰、中央区が9.9‰と続いている。最も低いのは西成区の4.3‰となっている。

イ 死亡

平成24年の死亡数は2万7404人で、平成23年（2万7711人）と比べると307人の減少となり、死亡率は10.3‰（前年は10.4‰）となっている。

死亡数を区別にみると、西成区が2584人と最も多く、次いで平野区が2036人、東淀川区が1659人、生野区が1650人と続いている。死亡数が最も少ない区は西区の548人である。

死亡率では、西成区が21.3‰と最も高く、次いで生野区が12.4‰、大正区が12.0‰と続いている。最も死亡率が低いのは西区の6.5‰となっている。

表6-1 自然動態の推移

年 次	自然増減			出 生			死 亡		
	増減数 (人)	対前年 (人)	自然 増減率 (‰)	出生数 (人)	対前年 (人)	出生率 (‰)	死亡数 (人)	対前年 (人)	死亡率 (‰)
17年	△ 1,878	△ 2,077	△ 0.7	22,706	△ 975	8.7	24,584	1,102	9.4
18年	△ 1,412	466	△ 0.5	22,823	117	8.7	24,235	△ 349	9.2
19年	△ 1,660	△ 248	△ 0.6	23,568	745	8.9	25,228	993	9.6
20年	△ 1,506	154	△ 0.6	24,028	460	9.1	25,534	306	9.7
21年	△ 1,703	△ 197	△ 0.6	23,346	△ 682	8.8	25,049	△ 485	9.5
22年	△ 3,184	△ 1,481	△ 1.2	23,608	262	8.9	26,792	1,743	10.1
23年	△ 3,945	△ 761	△ 1.5	23,766	158	8.9	27,711	919	10.4
24年	△ 4,337	△ 392	△ 1.6	23,067	△ 699	8.6	27,404	△ 307	10.3

1 自然増減数、出生数、死亡数は前年10月中から当年9月中の合計である。

2 自然増減率、出生率、死亡率は前年10月1日現在人口1000人に対する比率で、単位は‰（パーセント）である。

3 平成18年から21年の推計人口は、平成22年国勢調査結果により修正を行っているため、人口異動の増減数と前述の人口推移の増減数とは一致しない。

表 6-2 区別自然動態

区名	自然 増減数 (人)	自然 増減率 (‰)	出生数 (人)	出生率 (‰)	死亡数 (人)	死亡率 (‰)
大阪市	△ 4,337	△ 1.6	23,067	8.6	27,404	10.3
北 区	136	1.2	1,020	9.1	884	7.8
都 島 区	6	0.1	893	8.7	887	8.6
福 島 区	184	2.7	744	10.8	560	8.1
此 花 区	△ 34	△ 0.5	640	9.7	674	10.2
中 央 区	224	2.8	802	9.9	578	7.1
西 区	379	4.5	927	10.9	548	6.5
港 区	△ 192	△ 2.3	668	7.9	860	10.2
大 正 区	△ 367	△ 5.3	458	6.7	825	12.0
天 王 寺 区	96	1.4	682	9.6	586	8.3
浪 速 区	△ 58	△ 0.9	584	9.2	642	10.2
西 淀 川 区	4	0.0	926	9.5	922	9.5
淀 川 区	80	0.5	1,607	9.3	1,527	8.9
東 淀 川 区	9	0.1	1,668	9.4	1,659	9.4
東 成 区	△ 125	△ 1.6	711	8.8	836	10.4
生 野 区	△ 753	△ 5.7	897	6.8	1,650	12.4
旭 区	△ 408	△ 4.4	672	7.3	1,080	11.7
城 東 区	△ 131	△ 0.8	1,508	9.1	1,639	9.9
鶴 見 区	360	3.2	1,307	11.7	947	8.5
阿 倍 野 区	△ 239	△ 2.2	835	7.8	1,074	10.1
住 之 江 区	△ 352	△ 2.8	982	7.8	1,334	10.6
住 吉 区	△ 320	△ 2.1	1,272	8.2	1,592	10.3
東 住 吉 区	△ 537	△ 4.1	943	7.2	1,480	11.4
平 野 区	△ 241	△ 1.2	1,795	9.0	2,036	10.2
西 成 区	△ 2,058	△ 17.0	526	4.3	2,584	21.3

1 自然増減数、出生数、死亡数は平成23年10月中から平成24年9月中の合計である。

2 自然増減率、出生率、死亡率は平成23年10月1日現在人口1000人に対する比率で、
単位は‰（パーセント）である。

表 6-3 自然増減率、出生率及び死亡率（上位7区）

順位	自然増減率		出生率		死亡率	
	区名	(‰)	区名	(‰)	区名	(‰)
1	西 区	4.5	鶴 見 区	11.7	西 成 区	21.3
2	鶴 見 区	3.2	西 区	10.9	生 野 区	12.4
3	中 央 区	2.8	福 島 区	10.8	大 正 区	12.0
4	福 島 区	2.7	中 央 区	9.9	旭 区	11.7
5	天 王 寺 区	1.4	此 花 区	9.7	東 住 吉 区	11.4
6	北 区	1.2	天 王 寺 区	9.6	住 之 江 区	10.6
7	淀 川 区	0.5	西 淀 川 区	9.5	城 東 区	10.4

(2) 社会動態

平成 24 年の社会動態(転入と転出の差)は 1 万 1133 人の増加となり、平成 23 年の社会動態(9210 人増)と比べると、1923 人の増加となった。また、社会増減率は 4.2‰(前年は 3.5‰)となっている。

社会増加数を区別にみると、北区が 1864 人と最も多く、次いで中央区が 1825 人、西区が 1481 人、浪速区が 1341 人、天王寺区が 1277 人など 16 区で増加となっている。一方、社会減少数では、港区が 666 人と最も多く、次いで大正区が 398 人、平野区が 386 人、住之江区が 355 人と続いている。

社会増加率では、中央区が 22.5‰と最も高く、次いで浪速区が 21.2‰、天王寺区が 18.0‰、西区が 17.4‰、北区が 16.5‰など、社会増加数と同様に市域中心部で高い増加率となっている。社会減少率では、港区が 7.9‰で最も高く、大正区が 5.8‰、住之江区が 2.8‰と続いている。

ア 転入

平成 24 年の転入数は 17 万 5509 人で、平成 23 年(17 万 5872 人)と比べると 363 人の減少となり、転入率は 65.7‰(前年は 66.0‰)となっている。

転入数を区別にみると、中央区が 1 万 2852 人と最も多く、次いで淀川区が 1 万 2387 人、北区が 1 万 2242 人、東淀川区が 1 万 1162 人、西区が 9588 人と続いている。転入数が最も少ない区は大正区の 2280 人である。

転入率では、中央区が 158.7‰と最も高く、次いで浪速区が 149.9‰、西区が 113.0‰、北区が 108.7‰と続いている。転入率でも、大正区が 33.2‰と最も低くなっている。

イ 転出

平成 24 年の転出数は 16 万 4376 人で、平成 23 年(16 万 6662 人)と比べると 2286 人の減少となり、転出率は 61.6‰(前年は 62.5‰)となっている。

転出数を区別にみると、淀川区が 1 万 2062 人と最も多く、次いで中央区が 1 万 1027 人、東淀川区が 1 万 757 人、北区が 1 万 378 人と続く。転出数が最も少ない区は大正区の 2678 人である。

転出率では、中央区が 136.2‰と最も高く、次いで浪速区が 128.7‰、西区が 95.5‰、北区が 92.1‰と続いている。転出率においても、大正区が 39.0‰と最も低くなっている。

表 6-4 社会動態の推移

年 次	社会増減			転 入			転 出		
	増減数 (人)	対前年 (人)	社 会 増減率 (‰)	転入数 (人)	対前年 (人)	転入率 (‰)	転出数 (人)	対前年 (人)	転出率 (‰)
17年	8,144	1,293	3.1	179,006	△ 3,911	68.2	170,862	△ 5,204	65.1
18年	8,021	△ 123	3.1	178,432	△ 574	67.9	170,411	△ 451	64.8
19年	10,045	2,024	3.8	180,072	1,640	68.3	170,027	△ 384	64.5
20年	9,800	△ 245	3.7	179,069	△ 1,003	67.8	169,269	△ 758	64.0
21年	11,304	1,504	4.3	181,851	2,782	68.6	170,547	1,278	64.3
22年	9,178	△ 2,126	3.5	177,693	△ 4,158	66.8	168,515	△ 2,032	63.4
23年	9,210	32	3.5	175,872	△ 1,821	66.0	166,662	△ 1,853	62.5
24年	11,133	1,923	4.2	175,509	△ 363	65.7	164,376	△ 2,286	61.6

1 社会増減数、転入数、転出数は前年10月中から当年9月中の合計である。

2 社会増減率、転入率、転出率は前年10月1日現在人口1000人に対する比率で、単位は‰(パーセント)である。

3 平成18年から21年の推計人口は、平成22年国勢調査結果により修正を行っているため、人口異動の増減数と前述の人口推移の増減数とは一致しない。

表 6-5 区別社会動態

区名	社会 増減数 (人)	社会 増減率 (%)	転入数 (人)	転入率 (%)	転出数 (人)	転出率 (%)
大阪市	11,133	4.2	175,509	65.7	164,376	61.6
北 区	1,864	16.5	12,242	108.7	10,378	92.1
都 島 区	781	7.6	7,008	68.0	6,227	60.4
福 島 区	751	10.9	5,471	79.4	4,720	68.5
此 花 区	325	4.9	3,437	52.0	3,112	47.1
中 央 区	1,825	22.5	12,852	158.7	11,027	136.2
西 区	1,481	17.4	9,588	113.0	8,107	95.5
港 区	△ 666	△ 7.9	3,917	46.5	4,583	54.4
大 正 区	△ 398	△ 5.8	2,280	33.2	2,678	39.0
天 王 寺 区	1,277	18.0	6,754	95.4	5,477	77.3
浪 速 区	1,341	21.2	9,469	149.9	8,128	128.7
西 淀 川 区	△ 132	△ 1.4	4,552	46.7	4,684	48.1
淀 川 区	325	1.9	12,387	71.9	12,062	70.0
東 淀 川 区	405	2.3	11,162	63.2	10,757	60.9
東 成 区	279	3.5	5,390	67.1	5,111	63.6
生 野 区	△ 77	△ 0.6	7,029	53.0	7,106	53.6
旭 区	0	0.0	4,758	51.8	4,758	51.8
城 東 区	△ 8	△ 0.0	9,248	55.9	9,256	55.9
鶴 見 区	74	0.7	5,547	49.9	5,473	49.2
阿 倍 野 区	929	8.7	7,015	65.8	6,086	57.1
住 之 江 区	△ 355	△ 2.8	5,382	42.6	5,737	45.4
住 吉 区	264	1.7	8,185	52.7	7,921	51.0
東 住 吉 区	88	0.7	6,603	50.7	6,515	50.1
平 野 区	△ 386	△ 1.9	7,966	40.0	8,352	41.9
西 成 区	1,146	9.5	7,267	59.9	6,121	50.5

1 社会増減数、転入数、転出数は平成23年10月中から平成24年9月中の合計である。

2 社会増減率、転入率、転出率は平成23年10月1日現在人口1000人に対する比率で、
単位は‰（パーセント）である。

表 6-6 社会増減率、転入率及び転出率（上位7区）

順位	社会増減率		転入率		転出率	
	区名	(%)	区名	(%)	区名	(%)
1	中央区	22.5	中央区	158.7	中央区	136.2
2	浪速区	21.2	浪速区	149.9	浪速区	128.7
3	天王寺区	18.0	西 区	113.0	西 区	95.5
4	西 区	17.4	北 区	108.7	北 区	92.1
5	北 区	16.5	天王寺区	95.4	天王寺区	77.3
6	福 島 区	10.9	福 島 区	79.4	淀 川 区	70.0
7	西 成 区	9.5	淀 川 区	71.9	福 島 区	68.5

7 年齢(3区分)別人口

(1) 年齢(3区分)別人口

平成 24 年の人口について年齢(3区分)別割合をみると、0~14 歳人口(年少人口)は 11.5%、15~64 歳人口(生産年齢人口)は 65.0%、65 歳以上人口(老人人口)は 23.5% となっており、65 歳以上人口の割合のみが、平成 23 年(22.8%)と比べて上昇している。

表 7-1 年齢 3 区分別推計人口

年 次	人 口 (人)					割 合 (%)				
	総 数 1)	0~14歳	15~64歳	65歳以上	う ち 75歳以上	総 数 2)	0~14歳	15~64歳	65歳以上	う ち 75歳以上
平成22年	2,665,314	308,093	1,734,432	598,835	270,993	100.0	11.7	65.7	22.7	10.3
23年	2,670,579	307,028	1,737,212	602,387	283,842	100.0	11.6	65.6	22.8	10.7
24年	2,677,375	305,525	1,724,985	622,913	296,186	100.0	11.5	65.0	23.5	11.2

平成22年は国勢調査結果

平成23年、平成24年は10月1日現在年齢別推計人口

1) 人口総数は年齢「不詳」を含むため、年齢3区分別人口の合計と一致しない。

2) 構成比は年齢「不詳」を除いて算出している。

(2) 区別の年齢(3区分)別人口

区別の年齢(3区分)別人口を平成 23 年と比べると、年少人口の増加が最も多いのは西区の 260 人増で、最も減少が大きいのは平野区の 615 人減であった。生産年齢人口では、中央区の 1228 人増が最も多く、最も減少が大きかったのは西成区の 1879 人減であった。老人人口では、平野区の 1560 人増が最も多いものの、全ての区でそれぞれ増加となった。

表 7-2 区別の年齢(3区分)別人口

区 名	平 成 24 年				平成23年からの増減数			(人)
	総数 1)	0~ 14歳	15~ 64歳	65歳 以上	0~ 14歳	15~ 64歳	65歳 以上	
大 阪 市	2,677,375	305,525	1,724,985	622,913	△ 1,503	△ 12,227	20,526	
北 区	114,657	9,556	81,298	21,156	179	925	896	
都 島 区	103,878	11,817	68,955	21,820	135	△ 258	910	
福 島 区	69,876	8,111	47,463	13,419	179	253	503	
此 花 区	66,368	8,167	42,193	15,895	135	△ 223	379	
中 央 区	83,029	6,687	62,496	13,840	245	1,228	576	
西 港 区	86,743	9,185	64,126	13,420	260	997	603	
大 正 区	83,358	9,582	52,695	20,556	△ 265	△ 1,230	637	
天 王 寺 区	67,958	8,081	41,336	18,187	△ 208	△ 1,082	525	
浪 速 区	72,187	8,980	48,162	13,387	198	596	579	
西 淀 川 区	64,432	3,806	45,806	12,199	180	643	460	
淀 川 区	97,333	13,363	61,763	21,653	△ 85	△ 824	781	
東 淀 川 区	172,694	18,174	116,867	35,711	△ 45	△ 964	1,414	
東 成 区	177,064	19,608	118,056	37,436	△ 195	△ 728	1,337	
生 野 区	80,530	9,206	51,477	19,091	114	△ 528	568	
旭 城 区	131,792	13,610	80,321	36,901	△ 288	△ 1,382	840	
城 東 区	91,514	10,133	56,167	24,978	△ 145	△ 888	625	
鶴 見 区	165,361	21,542	105,138	37,913	△ 137	△ 1,378	1,376	
阿 倍 野 区	111,684	18,113	70,603	22,305	△ 127	△ 49	610	
住 之 江 区	107,358	13,031	67,450	26,234	119	△ 26	597	
住 吉 区	125,589	14,764	79,452	30,639	△ 392	△ 1,619	1,304	
東 住 吉 区	155,253	18,598	96,807	38,878	△ 310	△ 958	1,212	
平 野 区	129,691	15,408	79,086	34,681	△ 236	△ 1,281	1,068	
西 成 区	198,674	27,259	120,423	50,130	△ 615	△ 1,572	1,560	
	120,352	8,744	66,845	42,584	△ 199	△ 1,879	1,166	

1)総数は年齢「不詳」を含むため、内訳とは一致しない。

区別の年齢（3区分）別人口の割合をみると、年少人口では鶴見区が16.3%と最も高く、次いで西淀川区と平野区が13.8%と続く。最も低いのは浪速区の6.2%となっている。

生産年齢人口では中央区が75.3%と最も高く、次いで浪速区が74.1%と続く。最も割合が低いのは西成区の56.6%となっている。

老人人口では西成区が36.0%と最も高く、次いで生野区が28.2%と続く。最も割合が低いのは西区の15.5%となっている。

表7-3 区別の年齢（3区分）別人口割合

区名	平成24年				23年からの増減			(ポイント)
	総数 1)	0~ 14歳	15~ 64歳	65歳 以上	0~ 14歳	15~ 64歳	65歳 以上	
大阪市	100.0	11.5	65.0	23.5	△ 0.09	△ 0.63	0.72	
北 区	100.0	8.5	72.6	18.9	0.01	△ 0.48	0.47	
都 島 区	100.0	11.5	67.2	21.3	0.04	△ 0.77	0.73	
福 島 区	100.0	11.8	68.8	19.4	0.10	△ 0.57	0.47	
此 花 区	100.0	12.3	63.7	24.0	0.15	△ 0.62	0.47	
中 央 区	100.0	8.1	75.3	16.7	0.10	△ 0.39	0.29	
西 区	100.0	10.6	73.9	15.5	0.07	△ 0.45	0.37	
港 区	100.0	11.6	63.6	24.8	△ 0.20	△ 0.82	1.02	
大 正 区	100.0	12.0	61.1	26.9	△ 0.17	△ 0.90	1.07	
天 王 寺 区	100.0	12.7	68.3	19.0	0.03	△ 0.49	0.46	
浪 速 区	100.0	6.2	74.1	19.7	0.17	△ 0.51	0.34	
西 淀 川 区	100.0	13.8	63.8	22.4	△ 0.07	△ 0.77	0.84	
淀 川 区	100.0	10.6	68.4	20.9	△ 0.05	△ 0.73	0.78	
東 淀 川 区	100.0	11.2	67.4	21.4	△ 0.14	△ 0.58	0.71	
東 成 区	100.0	11.5	64.5	23.9	0.12	△ 0.79	0.67	
生 野 区	100.0	10.4	61.4	28.2	△ 0.15	△ 0.66	0.82	
旭 区	100.0	11.1	61.6	27.3	△ 0.11	△ 0.70	0.80	
城 東 区	100.0	13.1	63.9	23.0	△ 0.07	△ 0.78	0.85	
鶴 見 区	100.0	16.3	63.6	20.1	△ 0.18	△ 0.29	0.47	
阿 倍 野 区	100.0	12.2	63.2	24.6	0.03	△ 0.44	0.40	
住 之 江 区	100.0	11.8	63.6	24.5	△ 0.25	△ 0.93	1.18	
住 吉 区	100.0	12.1	62.7	25.2	△ 0.20	△ 0.60	0.79	
東 住 吉 区	100.0	11.9	61.2	26.8	△ 0.14	△ 0.78	0.92	
平 野 区	100.0	13.8	60.9	25.3	△ 0.27	△ 0.60	0.87	
西 成 区	100.0	7.4	56.6	36.0	△ 0.11	△ 1.14	1.26	

1)割合は年齢「不詳」を除いて算出している。

表7-4 年齢（3区分）別人口割合（上位7区）

順位	0~14歳		15歳~64歳		65歳以上	
	区名	割合(%)	区名	割合(%)	区名	割合(%)
1	鶴見区	16.3	中央区	75.3	西成区	36.0
2	西淀川区	13.8	浪速区	74.1	生野区	28.2
3	平野区	13.8	西区	73.9	旭区	27.3
4	城東区	13.1	北区	72.6	大正区	26.9
5	天王寺区	12.7	福島区	68.8	東住吉区	26.8
6	此花区	12.3	淀川区	68.4	平野区	25.3
7	阿倍野区	12.2	天王寺区	68.3	住吉区	25.2

(3)年齢(5歳階級)別社会動態

平成 24 年の社会動態を年齢（5歳階級）別にみると、15歳から 29歳までの各階級で 1000 人を超える社会増加となっており、特に「20～24歳」では 9432 人の増加となっている。これに対して、30歳から 39歳及び 0歳から 9歳までの各階級（世帯形成層・育児層及びその子どもの層）では社会減少となっている。

表 7－5 年齢（5歳階級）別転入、転出及び社会増加数

	0～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	(人)
転入	7,676	3,168	2,162	7,035	31,302	36,598	24,863	16,578	
転出	10,689	3,716	2,051	4,573	21,870	34,822	25,795	17,054	
社会増加	△ 3,013	△ 548	111	2,462	9,432	1,776	△ 932	△ 476	
	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75歳以上	
転入	11,324	7,603	5,913	4,930	5,270	3,311	2,589	5,187	
転出	10,916	6,895	5,343	4,509	5,033	3,136	2,328	5,646	
社会増加	408	708	570	421	237	175	261	△ 459	

図 7－1 年齢（5歳階級）別社会動態

